

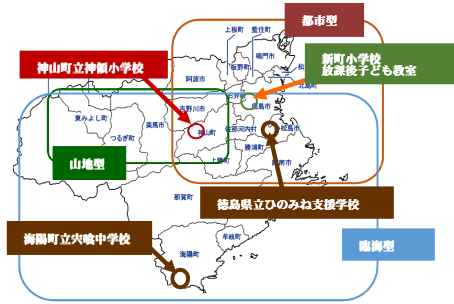
体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

地域の絆ですすめる防災生涯学習キャンププロジェクト

徳島県教育委員会

【事業のポイント】

- 学校・家庭・地域の連携を図り、地域の絆を深め、その絆のもと学校防災教育を地域防災教育につなげる。
- 「地域の子供たちの命は地域で守る」・「地域の命を地域で守る」生涯にわたる防災・減災学習プログラムの確立を図る。
- 学校防災教育の学習成果を発展させ、将来、地域防災において中心的な役割を果たす青少年を学校・家庭・地域の連携による防災生涯学習の取組の中で育成する。



1. 企画

(1) 事業実施の背景

未曾有の甚大な被害をもたらした、平成23年3月11日の東日本大震災発災以降、徳島県では「学校防災管理マニュアル」改定に着手し、これまでの「管理マニュアル」を大幅に見直した「暫定版」を平成23年12月に作成し、平成24年8月の内閣府による「南海トラフ巨大地震に関する津波高、想定浸水区域、被害想定」の公表後は、平成24年10月徳島県の最終的な津波浸水被害のとりまとめを公表し、平成25年「暫定版」を改定した。そして、防災教育、すなわち「命を守る教育」として、「防災教育推進モデル校」、高校における「防災クラブ」設置、小・中学校施設の耐震化推進、県立学校施設の計画的な耐震化と拠点避難所となる県立学校の避難所機能の整備充実等に取り組んでいる。

また、南海トラフの巨大地震に備え、県民がいつでも、どこでも、そして、生涯にわたって防災について学ぶ、学べる防災生涯学習環境づくりによる防災・減災の三助(自助・共助・公助)意識のさらなる醸成や、学校・家庭・地域の連携支援スペシャリスト等による学校・家庭・地域の連携による防災・減災の取組をすすめている。

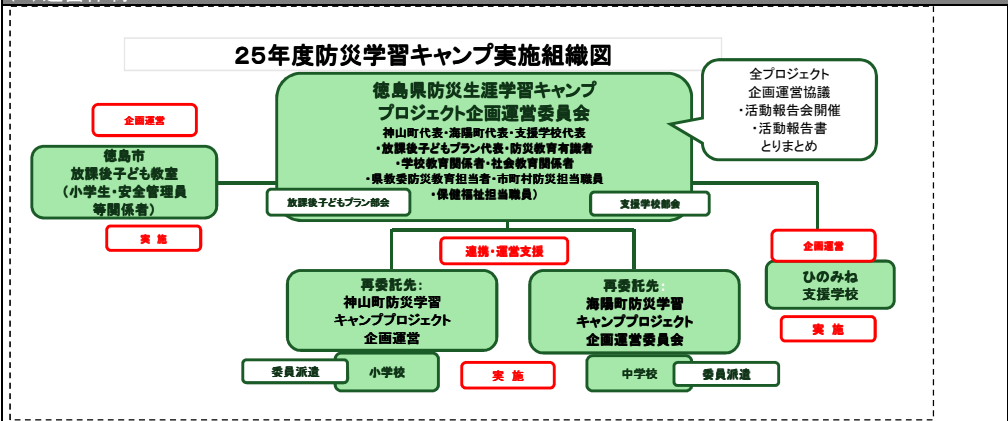
(2) わらい

被害想定死者3万1千人と発表された南海トラフの巨大地震の発生確率が高まる中、自助・共助の重要性、地域一人ひとりの防災意識の向上、生涯にわたる防災学習の展開が防災・減災上の喫緊の課題となっている。学校・家庭・地域の連携を図り、地域の絆のもと学校防災教育を地域防災につなげる取組が必要である。

徳島県教育委員会では本事業において、「地域の子供たちの命は地域で守る」・「地域の命を地域で守る」をスローガンに、地域に立脚した生涯にわたる防災・減災学習プログラムの確立を図る。防災学習キャンプの実施、フォーラム開催を軸に、将来、地域防災において中心的な役割を果たす青少年を学校・家庭・地域の連携による防災生涯学習の取組の中で育成する。

2. 事業概要

(1) 運営体制

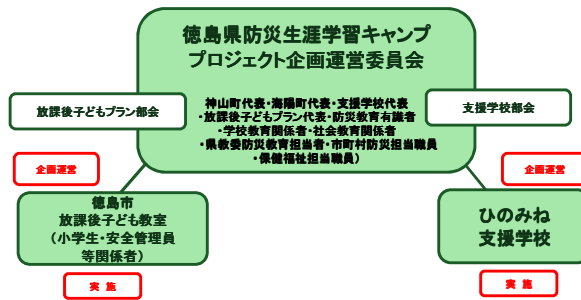


(2) 開催実績

月 日	内 容
7月4日	徳島県防災生涯学習キャンププロジェクト第1回企画運営委員会立ち上げ
7月22日	神山町防災学習キャンププロジェクト第1回企画運営委員会
8月7日	海陽町防災学習キャンププロジェクト第1回企画運営委員会
8月9日～10日	神山町防災学習キャンプ
8月19日～21日	海陽町防災学習キャンプ
8月23日～24日	ひのみね支援学校防災学習キャンプ
8月28日～29日	放課後子ども教室防災学習キャンプ
11月5日	徳島県防災生涯学習キャンププロジェクト第2回企画運営委員会
11月18日	神山町防災学習キャンププロジェクト第2回企画運営委員会
11月29日	海陽町防災学習キャンププロジェクト第2回企画運営委員会
12月7日	徳島県防災生涯学習キャンププロジェクト活動報告会
1月29日	徳島県防災生涯学習キャンププロジェクト第3回企画運営委員会

3. 防災キャンプ実施概要

(1) 運営体制



(2) 実施内容

新町小学校放課後子ども教室防災学習キャンプ

2013. 8. 28(水)～8. 29(木)

活動趣旨

本防災学習キャンプを実施することによって、教室運営を行う地域人材と学校関係者・地域団体関係者の連携をより一層強め、災害発生時の子供たちを守るための行動の流れ、役割をそれぞれが共通理解し、地域において子供たちのいのちを守る体制を確立する。

スケジュール

8月28日(水) < 1日目 >
 13:30～13:40 開会・オリエンテーション
 13:40～15:10 防災訓練Ⅰ(避難シミュレーション)
 15:30～16:30 防災訓練Ⅱ(避難訓練)
 16:40～18:00 防災訓練Ⅲ(炊き出し補助)
 19:00～21:00 防災訓練Ⅳ(避難所設置)
 防災訓練Ⅴ(避難所生活:防災ビデオ視聴)
8月29日(木) < 2日目 >
 6:30 起床
 6:30～ 8:30 防災訓練Ⅵ(支援物資を想定した朝食)
 9:00～11:00 防災訓練Ⅶ(地域のフィールドワーク)
 (防災マップづくり)
 11:00～11:30 閉会行事

オリエンテーション



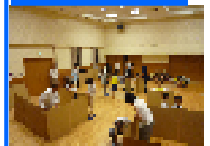
防災訓練Ⅰ (避難シミュレーション)



防災訓練Ⅲ (炊き出し:非常食を中心に)



防災訓練Ⅳ (避難所設置)



防災訓練Ⅴ (防災関連ビデオ視聴)



防災訓練Ⅵ (支援物資を想定した朝食)



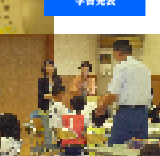
防災訓練Ⅶ (地域のフィールドワーク)



学習発表



防災訓練Ⅷ (防災マップづくり)



成果と課題

- ・放課後子ども教室在籍の児童は1・2年生が圧倒的に多く、かつ初めての宿泊訓練ということで心配していたが、子供たちは初めての宿泊も気にせず避難所体験ができた。
- ・学校での避難訓練もスムーズにでき、障害物を乗り越えての避難訓練も大変効果的でよい体験を積むことができた。
- ・今後、自主防災会として一般の方々を対象とした地域挙げての防災訓練の必要性を参加者全員が理解した。放課後子ども教室防災学習キャンプが地域の防災活動への広がりをもたらしたことが大きな成果である。
- ・放課後子ども教室という立場上、学校における防災教育・訓練との連携を一段と深めていく必要がある。

(2) 実施内容

ひのみね支援学校防災学習キャンプ

2013. 8. 23(金)～8. 24(土)

活動趣旨

徳島県立ひのみね支援学校は、港から直線距離で800mに位置し、在籍児童生徒のほとんどが車いす使用であることから、発災時の対応が喫緊の課題となっている。また、小松島市の避難所施設にも指定されており、地域住民と共に地震・津波による災害等について学び、災害時の活動の仕方や生活の仕方、身の置き方を考える機会となり、いざというときの支援に結びつくと考える。

スケジュール

8月23日(金) < 1日目 >
 13:15～13:30 開会行事・オリエンテーション
 13:30～14:50 体験Ⅰ(避難訓練)
 15:00～17:00 体験Ⅱ(避難所設置)
 17:30～19:00 体験Ⅲ(非常食準備・夕食)
 19:00～20:00 体験Ⅳ(防災関連講演)
 21:00～ 就寝
8月24日(土) < 2日目 >
 6:30 起床
 7:00～ 7:15 朝の集い・オリエンテーション
 7:15～ 8:30 体験Ⅴ(非常食準備・朝食)
 9:00～10:45 体験Ⅵ(講演会)
 10:45～11:00 閉会行事

体験Ⅰ (避難訓練)



体験Ⅱ (避難所設置)



体験Ⅲ (非常食・夕食)



災害時メンタルケア講



ひのみね学校防災地域連絡協議

- 参加機関 (9機関)
- ・徳島赤十字ひのみね総合療育センター
 - ・徳島県発達障害者総合支援センター
 - ・徳島県赤十字乳児院
 - ・小松島市消防本部
 - ・小松島市役所市民安全課
 - ・中田町協議会
 - ・中田東自主防災会
 - ・みなと高等学園
 - ・ひのみね支援学校

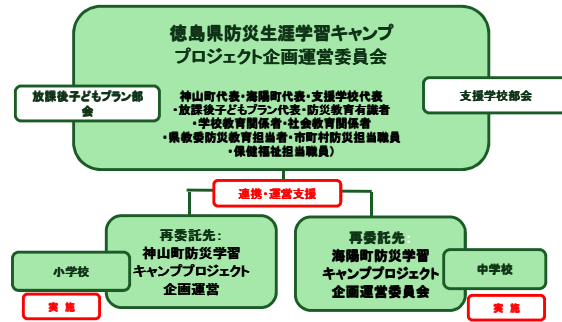
<趣旨>

- ・ひのみね支援学校の啓発
- ・児童生徒の避難時の支援協力
- ・連携強化と役割分担の明確化

成果と課題

- ・地域の方と活動を共にすることにより、連携が深まり本校に対する理解が進んだ。
- ・地域の方と実際に避難所等の体験を行うことにより、今まで見えなかった細かな課題が明らかになった。
- ・災害予想に応じた防災マニュアルの見直しが必要。
- ・今回の活動で得られた成果をどのように継続していくか、具体的な計画が必要。

(1) 運営体制



(2) 実施内容

神山町防災学習キャンプ (神山町立神領小学校) 2013. 8. 9(金)～8. 10(土)

活動趣旨

神山町で想定される地震や土砂災害時の対応について理解するとともに、学校での避難所体験を通じて、防災の観点から「地域の命を地域で守る」生涯にわたる防災・減災学習プログラムの確立を図ります。さらに、将来地域防災において中心的な役割を果たすリーダーを学校・家庭・地域の連携によって育成します。

スケジュール

8月 9日(金) < 1日目 >
 9:30～10:00 オリエンテーション
 10:00～11:00 防災訓練Ⅰ(避難訓練・消火訓練)
 11:20～11:30 防災訓練Ⅱ(避難所体験)
 11:30～13:00 防災訓練Ⅲ(非常食調理・昼食)
 13:30～14:20 防災講演会「災害から身を守るために」
 14:30～16:30 防災訓練Ⅳ(フィールドワーク)
 16:30～18:00 防災訓練Ⅴ(炊き出し補助・夕食)
 19:00～20:00 防災訓練Ⅵ(避難所設置)
 20:00～21:30 防災訓練Ⅶ(夜間時における避難)
 22:00～ 就寝
 8月10日(土) < 2日目 >
 6:30 起床
 7:30～ 8:30 防災訓練Ⅷ(支援物資を想定した朝食)
 9:00～11:00 防災訓練Ⅷ(防災マップづくり ワークショップ)
 11:00～ 閉会行事

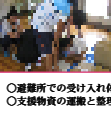
オリエンテーション



防災訓練Ⅰ



防災訓練Ⅱ



○避難所での受け入れ体制づくり
 ○支援物資の運搬と整理

防災訓練Ⅱ



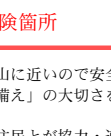
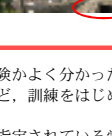
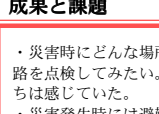
防災講演

防災訓練Ⅲ



「災害から身を守るために」
 徳島大学大学院 西山賢一准教授

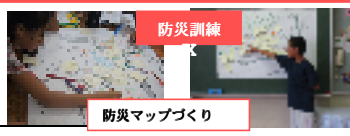
防災訓練Ⅳ



成果と課題

危険箇所

・災害時にどんな場所が危険がよく分かった。「家は山に近いので安全な避難路を点検してみたい。」など、訓練をはじめとした「備え」の大切さを子供たちは感じていた。
 ・災害発生時には避難所に指定されている学校と近隣住民とが協力・連携した対応ができるよう、日頃から協力体制を築いておく必要がある。



防災訓練

防災マップづくり

(2) 実施内容

海陽町防災学習キャンプ (海陽町立宍喰中学校) 2013. 8. 19(月)～8. 21(水)

活動趣旨

海陽町で想定される南海トラフの巨大地震による災害時の対応について理解するとともに、学校での避難所生活を通じて、防災の観点から「地域の命は地域で守る」生涯にわたる防災・減災学習プログラムの確立を図ります。

スケジュール

8月19日(月) < 1日目 >
 13:30～15:00 閉会行事・オリエンテーション・起震車体験
 防災訓練Ⅰ(避難訓練)
 15:00～17:00 防災訓練Ⅱ(避難所における役割分担)
 防災訓練Ⅲ(避難所・就寝場所設置)
 17:00～18:30 防災訓練Ⅳ(炊き出し補助)
 19:00～21:00 防災訓練Ⅴ(夜間移動訓練)
 8月20日(火) < 2日目 >
 6:30 朝の集い
 7:00～ 9:00 防災訓練Ⅵ(支援物資を想定した朝食)
 9:30～11:00 防災講演Ⅶ(南海トラフの巨大地震について)
 11:20～13:00 防災訓練Ⅷ(支援物資を想定した昼食)
 13:30～15:30 防災訓練Ⅷ(実経験に基づいた災害時の対応について学ぶ)
 17:00～18:30 防災訓練Ⅷ(炊き出し補助)
 19:30～21:00 防災訓練Ⅷ(夜間移動訓練)
 8月21日(水) < 3日目 >
 6:30 朝の集い
 7:00～ 8:30 防災訓練Ⅷ(支援物資を想定した朝食)
 9:00～11:00 学習・体験発表・まとめ
 11:00～ 閉会行事

(起震車体験)



防災訓練Ⅰ(避難訓練)



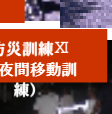
防災訓練Ⅲ(避難所設置)



防災訓練Ⅳ(炊き出し補助)



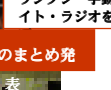
防災訓練Ⅴ(夜間移動訓練)



防災講演Ⅶ(防災講演)



ランタン・手動式ライト・ラジオを持っ



班ごとのまとめ発表



訓練ごとにわかったことや反省点を書き出す

成果と課題

・避難所での生活が、思ったよりストレスが溜まったりすることがよく分かった。
 ・避難所運営での役割を考えたもつとてききしたら良かった。
 ・地震のことをあまりみていて、自分の家の近くの逃げる場所を知らなかった。
 ・暗いといつも通っている道もよく分からなかった。ライトやラジオが役に立つことがわかった。
 ・実体験に基づいた研修で、知らないことが多くあり、ためになった。
 ・自分たちが逃げるときに、大きな声を出してみんなに知らせる率先避難者にならないといけないと思った。
 ・食事のありがたさがよく分かった。地震や津波について真剣に考えるようになった。
 ・保護者、地域の自主防災会、婦人会、PTA等各種団体も協力することによって今一度、防災を見直すよい機会になった。
 ・避難所生活は地域住民が主体となって行う訓練なので、訓練方法の見直しをする必要がある。



防災訓練区

実経験に基づいた災害時の対応自衛隊による指導

4. 普及啓発の実施概要

防災学習キャンプ活動報告会～地域の絆ですすめる防災生涯学習キャンププロジェクトフォーラム～

・開催日時 平成25年12月7日(土) 午後1時から午後4時まで

・開催会場 とくぎんトモニプラザ(徳島県青少年センター)3階大会議室

・日程 12:30～ 受付

13:00～ 開会 開会あいさつ

徳島県教育委員会あいさつ

体験活動推進プロジェクト「防災キャンプ推進事業」

「地域の絆ですすめる防災生涯学習キャンププロジェクト」概要説明

13:10～ 基調講演「地域を創る ～生まれてきてよかったといえる社会へ」

天野 和彦 特任准教授: 福島大学つくしまふくしま未来支援センター

14:20～ パネルディスカッションテーマ「防災学習キャンプが子どもたち、地域を変えた!」

パネラー

森 好史さん(徳島県立ひのみね支援学校)

長江 範裕さん(海陽町教育委員会)

楠 達也さん(神山町立神領小学校)

岩佐 重明さん(西富田公民館)

中野 晋さん(徳島大学大学院教授)

天野 和彦さん(福島大学特任准教授)

コーディネーター

コメンテーター

15:55～ 閉会あいさつ

16:00 閉会

・その他

※会場に各防災キャンプ活動時に使用したグッズ等の展示コーナーを設置します。

3. 成果と課題

(1) 事業成果

・放課後子ども教室在籍の児童は1・2年生が圧倒的に多く、かつ初めての宿泊訓練ということで心配したが、子供たちは初めての宿泊も気にせず避難所体験ができた。(放課後子ども教室防災学習キャンプ)

・学校での避難訓練も障害物を乗り越えての避難訓練も大変効果的でよい体験を積むことができた。(放課後子ども教室防災学習キャンプ)

・今後に向けて、自主防災会として一般の方々を対象とした地域挙げての防災訓練の必要性を参加者全員が理解し、地域の防災活動への広がりを見せた。(ひのみね支援学校防災学習キャンプ)

・地域の方と活動を共にすることにより、連携が深まり、ひのみね支援学校に対する理解が進んだ。(ひのみね支援学校防災学習キャンプ)

・地域の方と実際に避難所等の体験を行うことにより、今まで見えなかった細かな課題が明らかになった。(ひのみね支援学校防災学習キャンプ)

・食事のありがたさがよく分かった。(海陽町防災学習キャンプ)

・自分たちが逃げるときに、大きな声を出してみんなに知らせる率先避難者にならないといけないと思った。(海陽町防災学習キャンプ)

・保護者、地域の自主防災会、婦人会、PTA等各種団体も協力することによって今一度、防災を見直すよい機会となった。(海陽町防災学習キャンプ)

・「家は山に近いので安全な避難路の点検を試みたい。」など訓練をはじめとした「備え」の大切さを子供たちは感じていた。(神山町防災学習キャンプ)

(2) 事業運営上の課題・留意点

・学校近隣地域から通学している児童がいないこともあり、それらの地域住民への周知が不十分であった。近隣住民については災害発生時には学校と協力・連携した対応ができるよう、児童が確認した危険箇所等について周知を行い、日頃から協力体制を築いておく必要がある。(神山町防災学習キャンプ)

・避難所生活は地域住民が主体となって行う訓練が大事なので、訓練方法の見直しをする必要がある。

・一過性に終わらせることなく、防災・減災意識の維持向上のために継続性が必要である。(海陽町防災学習キャンプ)

・体育館が使用できない場合のマニュアルや、一次避難してから動き等を災害規模に応じて新たに検討する必要がある。(ひのみね支援学校防災学習キャンプ)

・地域の方等からは、ぜひ防災学習キャンプを継続してほしいという声が上がっているが、次年度からどのような形で継続していくのが課題である。(ひのみね支援学校防災学習キャンプ)

・放課後子ども教室という立場上、学校における防災教育・訓練との連携を一段と深めていく必要がある。(放課後子ども教室防災学習キャンプ)

(3) その他

活動報告会では、子供たちが日常とは異なる体育館等での寝泊まりを含む様々な体験活動を通して、地域防災におけるリーダー意識などの防災に対する心構えや防災の技術を身に付け、少し自信を付けた様子や、地域の方々との連携した取組によって、地域の方々をよく知るきっかけとなったことなどが報告された。

また、地域と連携した防災キャンプの取組の中で見えてきた、学校と地域の防災の取組を継続させるためのキーパーソンの役割や、より多くの地域住民と同様の取組をする際や要援護者支援の留意点など、次のステップに向けての課題も出された。地域と連携した防災教育を推進する上で、こうした課題を見つけ、次のステップに進むことが大切であることを改めて認識した。

4. 団体プロフィール

徳島県教育委員会生涯学習政策課
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地
電話番号 088-621-3148
ファクシミリ 088-621-2884



海陽町防災キャンププロジェクト